

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
YIC京都ビューティ専門学校	平成21年12月2日	村田 忠男	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4100																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
商業実務	商業実務専門課程	ブライダル科	平成28年文部科学省 告示第18号	-																							
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通しての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。</p> <p>具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教えることを目的とする。</p> <p>真のビューティフルライフは、単なる外見の美しさだけではなく、知性・感性・人間性・誠実さ・自信など肉体・精神が健康であることから成り立つものと考え。本校が目指す美容分野のスペシャリストは美容師であることをベースにヘア・メイクリスト、スタイリスト、メイクリスト、ネイリストといった髪・顔・装いのそれぞれの分野を深く極めたスペシャリストであるとともに、一人の人間をトータルにとらえ、総合的な美を演出できることを目指す。将来は、美容業界の指導的立場やリーダーとなることを期待している。</p>																										
認定年月日	平成26年 3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,800時間	780時間		1020時間																						
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
70人	36人		3人	7人	10人																						
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																							
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月10日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率: 80%以上 成績: 60点以上(100点満点) 学費の完納																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等) ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成31年度卒業生) ウェディングサロン、ホテル、美容室等 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数 : 11 人 ■就職希望者数 : 10 人 ■就職者数 : 10 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90.9 % ■その他 ・進学者数: 人 (平成 31 年度卒業生に関する 2020年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブライダル検定1級(ABC協会)</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ドレススタイリスト検定</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ブライダルフラワーコーディネーター検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>JMA3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ブライダル検定1級(ABC協会)	③	11人	11人	ドレススタイリスト検定	③	11人	11人	ブライダルフラワーコーディネーター検定	③	12人	12人	JMA3級	③	12人	12人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
ブライダル検定1級(ABC協会)	③	11人	11人																								
ドレススタイリスト検定	③	11人	11人																								
ブライダルフラワーコーディネーター検定	③	12人	12人																								
JMA3級	③	12人	12人																								
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成31年 4月 1日時点において、在学者 31名(平成31年 4月 1日入学者を含む) 令和 2年 3月31日時点において、在学者 30名(令和 2年 3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 一身上の都合		■中退率	3.2 %																							
■中退防止・中退者支援のための取組																											
QU(Questionnaire Utilities)により学生の学校生活での満足度と意欲クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業について行けない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個人への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者n太子初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/</a>																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
- ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す 学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。

必修科目	専門科目	・卒業生が必ず修得していなければならない科目 ・基本共通科目	座学・実技
	人間力		キャリア科目
選択必修科目		卒業生が修得していなければならない科目 専攻によりより深く学ぶことができる	学生自身が 自分の将来に 向けて選択
選択必修科目		卒業生が修得することが望ましい科目	

- ・教育課程科目は、毎年度毎に見直し、新設、廃止、改訂、改正を行う。これらの結果は、教育課程編成委員会における企業側の科目の指導・助言に基づき必要に応じて内容の修正、変更・追加を行う。
- ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
- ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、キャリア科目だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
- ・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
玄田 宗七	滋賀県美容業生活衛生同業組合 理事長	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	②
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
浅野 健治	株式会社YAYOI BRAINS 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
伊佐治 勇樹	株式会社ガネイシャ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
相良 知之	資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部広域3グループ部長	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
越前 多恵子	ワタベウェディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
岡澤 ひとみ	株式会社WEDDGE 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
村田 忠男	YIC京都ビューティ専門学校 校長		
田澤 初美	YIC京都ビューティ専門学校 教務課長		
山根 大助	YIC京都ビューティ専門学校 内部監査(IR準備)室 室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

<p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期</p> <p>年間開催数 2回</p> <p>(開催日時)</p> <p>第1回 令和1年6月3日 15:30～17:00</p> <p>第2回 令和1年11月18日</p> <p>第1回 令和2年9月2日 予定</p> <p>第2回 令和2年11月(予定)</p>		
<p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況</p> <p>※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。</p> <p>近年ホテルに就職する学生増えたがどのような対応をされているのか→ホテル理論、ホスピタルマインド、セレモニープロデュースの授業を新しく取り入れた</p> <p>近年ブライダル業界の業務はほとんどがパソコンを扱っているが、どのように対応をされているのか→ホテルビジネス実務、ビジネスマネジメント、ビジネス文書の授業を新しく取り入れた</p> <p>ホテルに勤務する場合は英語が必須となるがどのような対応をされているのか→英語と言うより英会話が重要と捉えているので、ビジネス英語を取り入れている</p> <p>資格検定の取り組みについて、ABCやBIAが重要なのではないかと。企業に入りたければBIAを取得した方が良い→本校は両方取得させている</p>		
<p>2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p>		
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>ブライダル分野の主力である資格検定試験習得に必要な教育科目は全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、ブライダル分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。</p> <p>後者の科目については、ブライダル分野の企業、メイク、ネイル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携し、ブライダル業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。</p> <p>連携授業の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。</p>		
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等と協定書を締結し、連携授業としてプレゼンテーション・ディベート学、ブライダルコスチュームの授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。</li> <li>・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。</li> </ul>		
<p>(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p>		
科目名	科目概要	連携企業等
プレゼンテーション・ディベート学	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。	株式会社WEDDGE
ネイル基礎	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート 検定3級対策の実施 ベーシックなネイルの技能と知識の基礎を習得 JNECネイリスト技能検定3級受験	株式会社ガモウ関西
インターンシップ I II	ブライダル業界研究で学んでいることを参考にしインターンシップの依頼(電話・依頼文作成)、インターンシップに参加する前提として、インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。交通費等の費用は原則自己負担である。	アイネスヴィラノッツェ宝ヶ池、(有)TAKE STEP、(株)ザ・セーリング、(株)ロイヤルホテル、(株)日比谷花壇、東急ホテル、スタイルズ、ワタベウエディング、扇屋、レック

ブライダルコスチューム	ウエディングに関する男性・女性のドレスコードを把握しする。洋装・和装の幅広い知識の習得に努める座学。暗記も多々あるが対策を実施しシーンやお客様にふさわしい提案ができるようになる。	株式会社ベトーアロマティーク
-------------	---	----------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教え育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ABC協会講師資格取得セミナー(連携企業等:全米ブライダルコンサルタント協会)  
期間:2019年8月20日(火曜日)～21日(水曜日) 対象:教員

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「キャリアサポーター養成講座」(連携企業等:職業教育キャリア教育財団)  
期間:2019年7月29日(月曜日)～7月31日(水曜日) 対象:教職員  
内容:  
・グループ討議、グループ研究、個人研究、個人作業、シェアリング(分かちあい)  
・キャリアの意味、カウンセリング、キャリア・サポートの実践法を学ぶ

研修名「京都学校教育相談研究大会」(連携企業等:京都府立学校教育相談研究会他)  
期間:2019年8月6日(火曜日) 対象:教職員  
内容:  
・ストレスマネジメントを学び、日々の学生指導・業務に活かす  
・全体会 講演(分かち合う心の進化 講師:京都大学 松沢哲郎先生)  
・分科会 ストレスマネジメントについて 講師:宮脇宏司先生)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ブライダルプランナー検定2級及びドレススタイリスト検定合格対策指導セミナー」(連携企業等:ABC協会)  
期間:2020年7月30日(木曜日) 対象:ブライダル系教員  
内容:  
・ABC検定2級及びドレススタイリスト検定合格対策 8/4Web開催に変更連絡あり(7/3)

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「京都学校教育相談研究大会」(連携企業等:京都府立学校教育相談研究会他)  
期間:2019年8月(未定) 対象:教職員  
内容:未定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育の内部質保証システム:

・企業連携授業に於いて企業選定基準はどの様になっているのか。考え方に賛同するという基準のみでは非常に数が多い、能力不足の企業も入る可能性があるのではないかと懸念される。分野ごとに条件は変化するかもしれないが。

→本校のキャリアサポート室や卒業生からの情報も踏まえ、企業を選定している。また、まずは本校の教育理念に賛同して頂いている事が大前提。今後もこの委員会を通して、ご教授いただきたい。

学校運営:

・教員の採用計画を計画的に実施した方が良いのではないかと。個々の教員の指導力に差があると授業の質の担保が難しくなる。指導して授業内容が改善されているのであれば良いが、改善が見られない教員がいるのであれば計画的な採用が必要と感じる

→教員を増やすという考えもあるが学校システムも変化させる事も検討している。担任制を個人固定ではなく学科、学校全体で見る

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
玄田 宗七	滋賀県美容業生活衛生同業組合 理事長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業
浅野 健治	株式会社YAYOI BRAINS 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業
伊佐治 勇樹	株式会社ガネイシャ 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業
相良 知之	資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部広域3グループ部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業
越前 多恵子	ワタベウエディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業
岡澤 ひとみ	株式会社WEDDGE 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	企業
福山 正樹	レーコ美容室株式会社	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/>  
 公表時期: 2020年 6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校の評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
 (ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL: <https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 ブライダル科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダル概論	現在の日本における結婚の定義、歴史や文化を知り、ブライダルとは何か？どんな意味・意義があるのか？を学ぶ。 また、プランナーとしてお客様と対応に当たり必要なブライダルの基礎知識や昨今のブライダル業界の傾向や地域性による違い等を学び、対応力を身につける。	1前	30	1	○			○			○	
○			現代ホテル理論	ホテルをビジネスモデルとして、運営・経営の仕組みや活動を学びます。講義では、実際のホテルの活動を中心にホテルの社会的役割や、ホテルビジネスを構成する経営の仕組みを、学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			ホテル ビジネス実務	ホテルの各セクションごとの業務内容、用語などの基礎知識を習得し、ホテルでのお客様への具体的な対応例からホスピタリティの精神を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			ブライダル コスチューム Ⅰ	人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣裳。花嫁がその運命の1着に出会われるまでのサポートをするのが コスチュームアドバイザーやスタイリストです。本授業では、衣裳の歴史・ドレスコード・シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスコードなどの扱い方を習得します。洋装(ウェディングドレスやカラードレス)・アクセサリー・ベールなどの小物合わせ、和装についてトータルで学習し、ブライダルの現場で即戦力となることを目指します。	1前	30	1	○			○			○	○
○			ブライダル コスチューム Ⅱ	主にドレススタイリスト検定取得を目指した対策授業を行う。また、前期で習得した技術・接客を活かしてお客様のドレス選びに必要な事前準備、ヒアリング内容、小物類の取り扱いなど、より実践的な対応を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	○
○			ブライダル コーディネーター 技能検定Ⅰ	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			ブライダル コーディネーター 技能検定Ⅱ	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。	1後	30	1	○			○			○	
○			全米ブライダル プランナー 検定Ⅰ	主に全米ブライダルプランナー検定2級取得を目的とした対策授業。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われている日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。	1前	30	1	○			○			○	
○			全米ブライダル プランナー 検定Ⅱ	主に全米ブライダルプランナー検定1級取得を目的とした対策授業。 前期に学習した内容を復習し、1級の範囲となるテキスト後半の対策及び、プランナーになった場合を想定した論述形式の問題への対策を行う。	1後	30	1	○			○			○	

○		ブライダル プロデュース Ⅰ	主に全米ブライダルプランナー検定1級取得を目的とした対策授業。 前期に学習した内容を復習し、1級の範囲となるテキスト後半の対策及び、プランナーになった場合を想定した論述形式の問題への対策を行う。	1 後	60	2			○	○	○			
○		ブライダル プロデュース Ⅱ	学内でリアルウェディング(本物の結婚式)を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。 また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人間になる	2 前	60	2			○	○	○			
○		セレモニー プロデュース Ⅰ	模擬披露宴の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割や、チームワークを学ぶ。	1 後	30	1			○	○	○			
○		セレモニー プロデュース Ⅱ	模擬挙式の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割を理解して、ブライダルプランナーになる意識を高める	2 前	30	1			○	○	○			
○		レストラン サー サービス	レストランサービスに携わるプロフェッショナルとして身につけるべき基本事項を学び、お客様にレストランの料理だけではなく、ホスピタリティーに感動して頂くための技能を身につける。	2 前	60	2	△		○	○	○			
○		フ ラ ワ ー コ ー ド ィ ネ ィ ト Ⅰ	結婚式や披露宴を演出するに必要なカラーフラワーの知識を理解する。フラワーアレンジメントの基本の実践とテクニックを学び、表現を身に付ける。ドレスに合ったブーケ提案、披露宴イメージにあったテーブル装飾が提案できる。	1 前	30	1			○	○	○			
○		フ ラ ワ ー コ ー ド ィ ネ ィ ト Ⅱ	結婚式や披露宴の、装花によるコーディネートを学ぶ。1年時に学習したフラワーアレンジの技術や知識をベースに、模擬披露宴などを通してお客様のニーズに合わせたブーケや会場装飾の提案を学ぶ実践的授業。	2 前	30	1			○	○	○			
○		ブライダル プラン ニング 演 習	グッドウェディングアワードエントリー及び視察・東京の婚礼会場視察	2 前	30	1			○	△	○	○	△	
○		ブ ラ ィ ダ ル 広 告 研 究	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーケティング手法を学びリアルウェディングのリーフを作成する事で集客につなげる。	2 後	30	1			○	○	○			
○		ブ ラ ィ ダ ル 映 像 基 礎	ブライダル業界で大きく費用のかかる宣伝広告費を理解しながら、マーケティング手法を学びリアルウェディングのリーフを作成する事で集客につなげる。	1 後	30	1			○	○	○			
○		イ ラ ス ト ン ・ デ ッ サ ン	鉛筆の削り方・持ち方・描き方・構図などのデッサンの基本を習得し、人の顔やスタイルなどスケッチ的なスタイル画へ発展させる。	2 後	30	1			○	○	○			
○		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅰ	鉛筆の削り方・持ち方・描き方・構図などのデッサンの基本を習得し、人の顔やスタイルなどスケッチ的なスタイル画へ発展させる。 イラストやデザインなど表現・提案するための基礎を学ぶ。	1 前	60	2			○	○	○			
○		イ ン タ ー ン シ ッ プ Ⅱ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	1 後	60	2			○	○	○			



○		インターンシップⅢ	ブライダル業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	1後	60	2				○	○	○						
○		ビジネス基礎Ⅰ	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。	1前	30	1	○			○								○
○		ビジネス基礎Ⅱ	マナーは形式を学ぶことではなく、「思いやり」の気持を表現する方法論のひとつです。その本質を理解した上で、よりよい表現方法を実践を通して学び、大人の女性としての基盤を作ります。	1後	30	1	○			○								○
○		硬筆書写Ⅰ	ブライダル業界に必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。(6月4級受験)	1前	30	1				○	○							○
○		硬筆書写Ⅱ	ブライダル業界に必要な美しい手書き文字を身に付け、お客様への手紙、商談のメモ等、字で信頼して頂くために、硬筆書写の基礎的な技術及び知識をもって書くことが出来るようになる。11月3受験 1月2級受験)	1後	30	1				○	○							○
○		サービス接遇Ⅰ	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める	1前	30	1	○			○								○
○		サービス接遇Ⅱ	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。	1前	30	1	○			○								○
○		マナープロトコール	美しい所作を身に付けると同時にお客様へのおもてなしを体現できる人間になる。	2後	30	1	○			○								○
○		プレゼンテーション・ディベート学Ⅰ	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。	1前	30	1	○			○								○
○		プレゼンテーション・ディベート学Ⅱ	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。	2前	30	1	○			○								○
○		セールスプロモーション	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知る。数組のカップルを想定し接客ロープレを実施する	2前	30	1	○			○								○
○		ビジネスマネジメント	管理職(マネジャー)は、企業と社員の結節点として、“経営ビジョンの浸透”や“事業戦略の策定・遂行”、“チームのモチベーションの向上”、“人材育成”などの多様かつ重要な役割を担っています。まさに企業の浮沈の鍵を握る要の存在です。この授業ではマネジメント知識を学び社会人基礎力を高めます。	2後	30	1	○			○								○
○		ビジネス英語基礎	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知る。数組のカップルを想定し接客ロープレを実施する	1後	30	1	△			○	○							○
○		ビジネス英語応用	ビジネス英語基礎で学んだ知識を応用し、ブライダルの新規接客や挙式当日によく交わされる会話を英語でもチャレンジできるようにする。	2前	30	1	△			○	○							○



合計	49科目	1,800時間
----	------	---------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必須科目48単位（1,440時間）および 選択科目16単位（480時間）、計64単位 （1,920時間）の履及び学費の完納 履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1 学年の学期区分
1 学期の授業期間		15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。